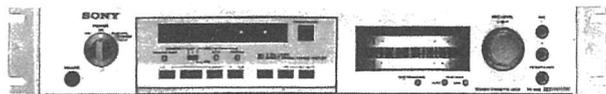


ステレオ カセット デッキ

TC-K88



取扱説明書

この説明書を読んで正しくお使いください。

説明書と保証書、サービス窓口のしおりはいっしょに保管してください。

目次

安全上のご注意	3
取扱い上のご注意	3
各部の名称と働き	4
接続	8
カセットの装着	9
録音	10
一時停止ボタンを使って	10
後追い録音	10
録音レベルの調節	11
代表的なテープとテープ切換スイッチの位置	11
再生	12
テープ残量のチェック	12
録音ミュート	13
曲の頭出し	14
自動選曲 (AMS)	14
キュー操作	15
メモリーストップ/プレイ	15
オートプレイ (自動再生)	15
タイマーを使った操作	16
消去	17
手入れのしかた	17
ヘッド部のクリーニング	17
ヘッドの消磁	17
キャビネットおよびパネル面の汚れ	17
カセットテープについて	17
主な規格	18
別売アクセサリ	18
故障とお考えになる前に	19
保証書とアフターサービス	裏表紙

お買上げいただきまことにありがとうございます。

ソニー TC-K88 は、伝統あるソニーのデッキづくりの歴史の中で蓄積された膨大なノウハウと、新しいエレクトロニクス技術をつぎこむことにより誕生した3モーターのステレオカセットデッキです。ユニークなリニア・スケイティングメカの採用により、パネルの高さ70mmの薄型化が可能となり、ソニーの薄型シリーズのアンプ、チューナーとの組合せにふさわしい、高級感あふれる美しいデザインにまとめあげました。

回転が静かでなめらかなリニアBSL (ブラシアンドスロットレス) モーターを採用した3モーター構成のダイレクトドライブ方式は信頼性の高い安定したテープ走行を可能にしています。早送り、巻戻し時のテープ走行はスピーディー、しかもテープエンド近くではスピードダウンさせるという、きめ細かな配慮も施されました。キャプスタンのクリスタルロック・マグネディスクサーボ方式によるダイレクトドライブ、駆動系の負荷とならない無接触検出の電子カウンターの採用などとあいまって、経時変化に強い、極めて誤差の少ない回転性能が実現し、テープ走行系のトータルな向上が図られました。また、センダストの磁気飽和特性のよさと、フェライトの高域特性のよさを両立させたS&Fヘッドの採用により、広いダイナミックレンジと高域までフラットに伸びた周波数特性が得られています。この他ドルビー回路のIC化なども合せて、優れた性能、高信頼性につながり、メタルテープの使用も可能なことから一段とすばらしい音の再生が可能になりました。

一方、AMS (自動選曲)、キュー操作、メモリープレイ、オートプレイと4種類の頭出しが自由にでき、さらにダブルインジケーション方式のピークプログラムメーターとテープ残量メーターの2つの機能を備えた液晶メーターを搭載するなど使いやすさも徹底して追求されました。オートスペース付の録音ミュートやタイマー録音、再生などもたいへん便利です。マイクロプロセッサによるロジカルコントロールの軽快なタッチの操作ボタンで、いろいろな操作が楽しめます。

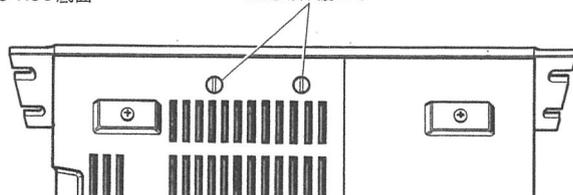
このように、機能、性能そしてデザインともに優れたTC-K88をどうぞ末永くご愛用ください。

お使いになる前に

底面の輸送用保護ねじ (2本) をはずしましたか? このねじを締めたままにしているとテープトランスポート部を引き出せず、正常な操作ができません。本機をお使いになる前に、まず、このねじを硬貨または⊖マイナスドライバーではずしてください。

TC-K88底面

輸送用保護ねじ



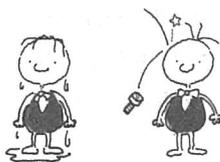
安全上のご注意

キャビネットは絶対にはずさないでください。内部に手を触れると感電することもあり、とても危険です。



このカセットデッキは AC 100V でお使いください。日本国内用ですので、外国では使えません。国内では電源周波数 50Hz、60Hz どちらでも使えます。

内部に液体をこぼしたり、燃えやすいものや金属類を落したりしないでください。故障や事故の原因になります。



長時間お使いにならないときは、電源コードをコンセントから抜いておいてください。その際は、コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。

電源コードの上に重いものをのせたり、落したりしてコードに傷をつけないよう注意してください。傷がついたまま使うと危険です。

万一異状や不具合がおきた場合には、電源プラグをコンセントから抜いて、ソニーのサービス窓口にご相談ください。



取扱い上のご注意

置き場所

次のようなところは避けてください。

- 風通しの悪いところ（まわりは 5cm 以上あけてください）
- 直射日光のあたるところ、暖房器具のそば
- 極端に寒いところ
- 湿気、ほこり、振動の多いところ

ヘッドのクリーニング

良い録音・再生をする条件の中で、忘れられがちなのがヘッドのクリーニングです。ヘッドは使っているうちにミクロン（ $1/1000$ ミリ）単位の微小なゴミでよごれてきます。ヘッドがよごれると、

- 音質が悪くなる
- 音が小さくなる
- 録音できなくなる
- 音がとぎれる
- 前の音が消えないで残る

などの原因になります。

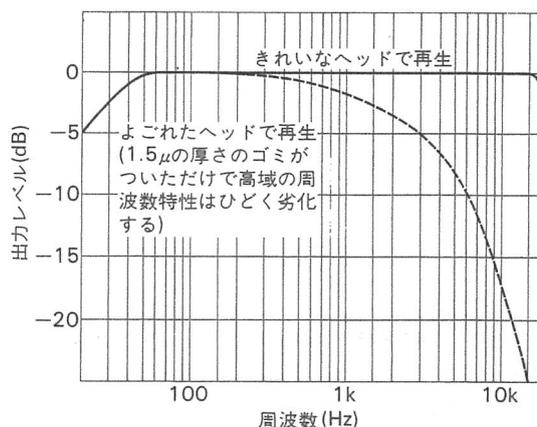
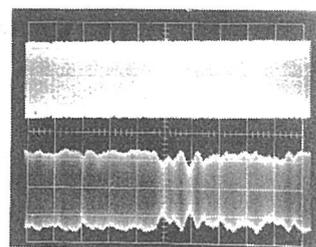
10KHz信号の再生波形



きれいなヘッド



汚れたヘッド
(レベル変動が起きる)



約 10 時間使ったらヘッドをふくようにしてください。また大切な録音のまえや、古いテープを使ったあとにも実行してください。クリーニングのしかたは、17 ページ“手入れのしかた”をごらんください。

各部の名称と働き

各名称の番号は写真と対応しています。[]内はパネル表示です。

①電源/タイマースイッチ [POWER]

電源のON/OFFと、タイマースイッチの働きをします。

ONにすると電源が入り、表示ランプが点灯します。OFFにすると電源が切れます。別売のタイマーを使って再生するときにはTIMER—PLAYに、録音するときはRECにします。➡16ページ

②録音レベル調節つまみ [REC LEVEL]

録音レベルを調節します。外側がL(左)チャンネル、内側がR(右)チャンネル用です。

③マイクジャック [MIC]

標準プラグ付、ローインピーダンスのマイクロホンを接続します。ミニプラグ付の場合はプラグアダプターPC-2A(別売)が必要です。

④ヘッドホンジャック [HEADPHONES]

録音レベルを決めるときや録音中のモニター、一人静かに再生音を聞くときなどにヘッドホンを接続します。

カセットテープの出し入れ

●テープトランスポート部はOPEN/CLOSEボタンを押すことによって自動的に開閉します。無理に手で押し込んだり引いたりしないでください。なお、OPEN/CLOSEボタンは電源を入れないと動作しません。

●カセットテープはきちんと装着してください。きちんと装着しないまま操作しますと、テープが巻き込まれて使えなくなることがあります。

その他

●テープトランスポート部が前に出ていても中に入っている状態でも、操作は同じようにできますが、録音、再生時はあまりひんばんに開閉動作をしないようにしてください。

●POWERスイッチは、タイマーを使って録音、再生するときだけ、TIMER側にしてください。

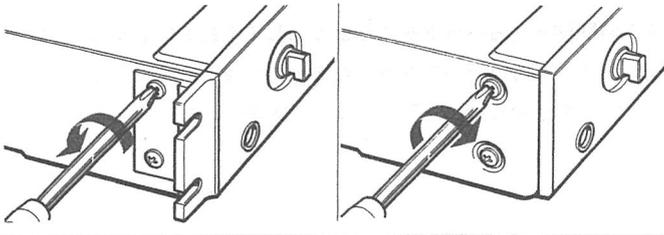
●デッキは前面パネルが手前になるように置いてください。傾けたり、前面パネルを上に向けて置かないでください。

●デッキの上には重いものをのせないでください。

●上下にあけてある放熱孔はふさがらないでください。内部が熱くなるとテープに悪い影響を与えます。

本機のラックマウント用把手は取りはずすことができます。

⊕プラスドライバーで、ねじ(左右各2本ずつ)をはずして把手を取りはずし、もう1度ねじを取り付けてください。



⑤液晶メーター(ピークプログラムメーター/テープ残量メーター)
ピークプログラムメーターとして、録音時には録音されるレベルを示し、再生時には録音されたレベルを示します。VUメーターと比べて応答速度が速く、刻々と変化するピーク値を忠実に示しますので、このメーターを見ながら録音レベル調節つまみで正確なレベルセッティングができます。また、レベルが読み取りやすいように、メーターの振れとは別に、ピーク値がメーター上にホールド(保持)されるダブルインジケーション方式です。

また、早送り、巻戻しの時には自動的にテープ残量表示となり、下側のメーターの%目盛で示されます。(このときメーターのL、Rは関係ありません。)録音、再生時には、テープ残量スイッチを押すと、ピークプログラムメーターのホールドが消えて残量を示すエレメントが点灯します。残量値がレベルより低いときは、その残量値のところが1エレメント抜けて表示されます。⇒12ページ

⑥ピークホールドスイッチ [PEAK HOLD]

ピークプログラムメーターのピーク値の表示のしかたを選びます。電源を入れたときには自動的にAUTOにセットされます。

AUTO: ピーク値が約1.7秒間ホールドされた後、自動的に次のピーク値が示されます。

MANUAL: ホールドされるピーク値は、メーター上にそのまま示

された最大の値です。より高いレベルが入ってくるとその値が次にホールドされます。テープやレコードのコピーのときに全体を通して最も高いレベルを知りたいとき、生録などで刻々と変わるレベルと同時に最大値も知りたいときに使うと便利です。テープ残量スイッチを押すと、ピークホールドは消えます。

⑦テープ残量スイッチ [TAPE REMAINING] と表示ランプ

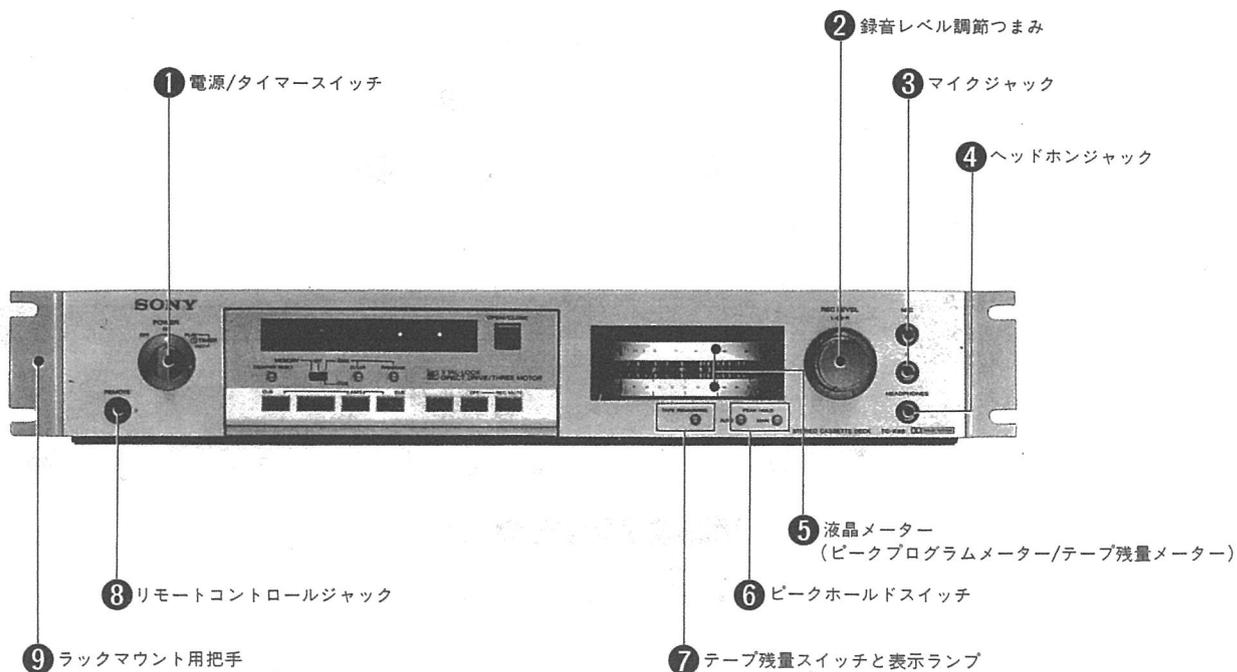
録音、再生中にテープの残量を知りたいときにこのスイッチを押すと、液晶ピークプログラムメーターのピークホールドが消え、テープ残量表示が出ます。このとき表示ランプが点灯し、テープ残量メーターとして働いていることを示します。ピークホールドスイッチ(AUTOまたはMANUAL)を押すとこのスイッチは解除し、ランプが消えます。

⑧リモートコントロールジャック [REMOTE]

別売のリモートコントロールRM-50を接続すると、離れたところからリモコン操作ができます。くわしくはRM-50の説明書をご覧ください。

⑨ラックマウント用把手

他のオーディオ機器に合わせて着脱可能です。



⑩テープカウンター [TAPE COUNTER] とリセットボタン [COUNTER RESET]

電源を入れると“0”がデジタル表示され、テープの走行に応じて数字が変わります。リセットボタンを押すとカウンターは“0”に戻ります。

⑪操作ボタン

どの動作へも直接切換えができます。ストップボタン以外は押しとランプが点灯します。



巻戻しボタン [◀◀]：テープを巻き戻すときに押します。送りボタン [▶▶] と同時に押し込みますとオートプレイやメモリープレイ、自動選曲 (AMS) ができます。CUE スイッチを使って再生中に押しと、キュー操作もできます。➡14、15 ページ
ストップボタン [■]：走行中のテープを止めるときに押します。テープが全部巻きとられるとオートシャットオフ機構が働いて

自動的にストップ状態になるため、このボタンを押す必要はありません。

送りボタン [▶]：テープを再生するときに押します。録音するときは、録音ボタンを押しながらこのボタンを押します。

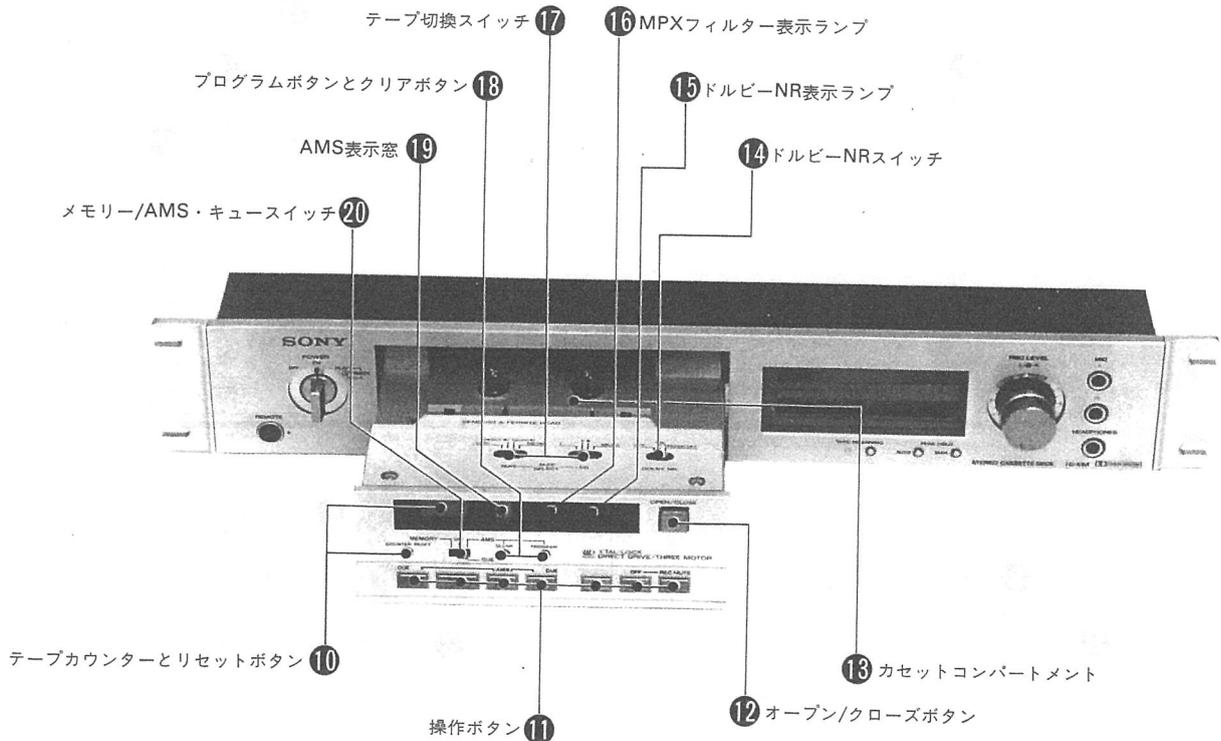
早送りボタン [▶▶]：テープを早送りするときに押します。送りボタンと同時に押しと自動選曲や、再生中に押しとキュー操作ができます。

録音ボタン [●]：録音レベルを調節するときに押します。録音するときにはこのボタンを押しながら送りボタンを押します。

一時停止ボタン [■]：録音、再生中にテープを一時停止させたいときに押します。もう一度押しと一時停止は解除され、テープは再び動き始めます。録音ミュート解除や、録音をタイミングよく始めたいときにもお使いください。

録音ミュートボタン [REC MUTE ○]：録音中、曲と曲の間の不要な部分をカットしたいときにこのボタンを押すと、4秒間無音録音の部分 (ブランク) を作り、自動的に一時停止の状態に切り換わります。4秒以下のブランクを作りたいときは、一時停止ボタンを押して録音ミュートを解除します。4秒以上のときはこのボタンを押し続けるとその間だけブランクが作れ、指を離すと自動的に一時停止に切り換わります。

➡13 ページ



⑫オープン/クローズボタン [OPEN/CLOSE ▲]

カセットの出し入れ、テープ切換スイッチやドルビー NR スイッチの切換えのときに、電源を入れてから軽く押してください。テープトランスポート部が前に出てきます。もう1度押すと元に戻っていきます。テープ走行中に、このオープン/クローズ動作をしても問題ありませんが、録音中はひんぱんにこの動作をしないことをおすすめします。

⑬カセットコンパートメント

ここにカセットを入れます。9 ページ“カセットの装着”に従って、きちんと入れてください。

⑭ドルビー NR スイッチ [DOLBY NR]

ドルビー方式による録音でFM 放送を録音するときは中央 (ON) の位置にします。ドルビー NR 表示ランプと MPX フィルター表示ランプがともに点灯します。

FM 放送以外のものをドルビー録音するときは右 (ON-FILTER OFF) にします。ドルビー NR 表示ランプだけが点灯します。

ドルビー方式によらない録音のときは左 (OFF) の位置にします。

再生のときは録音時と同じ位置にします。(ただし、ドルビー ON での再生時はフィルターの ON、OFF は関係しませんので、中央、右、どちらの位置でもかまいません。)

*ドルビー方式とは、録音時テープに生じるヒスノイズ(サーサーという主に高域成分の雑音)を減らすシステムです。録音は、雑音が耳につきやすい高音のピアノの部分を強調して行ない、再生では強調して録音した分だけ弱めてもとに戻します。その結果、録音のときに高音で強調された分だけ雑音が弱められ、S/Nの良い音が楽しめます。

Dolbyと  マークはドルビー研究所の登録商標です。

ノイズリダクションはドルビー研究所より実施許諾されています。

**FM放送のステレオ信号には19kHzのパイロット信号と38kHzのサブキャリアが含まれています。ドルビー NR スイッチ ON(中央)の位置ではMPXフィルターが働いてこれらの信号を取り除き、回路が誤動作するのを防ぎます。FILTER OFFの位置ではMPXフィルターが解除され、FM放送以外のドルビー録音に使用します。マイク録音のときは、FILTERのON、OFFとは無関係にMPXフィルターは働きません。

⑮ドルビー NR 表示ランプ [DOLBY NR]

ドルビー NR スイッチを ON (中央または右) にすると点灯し、ドルビー回路が働いていることを表示します。

⑯MPX フィルター表示ランプ [MPX FILTER]

ドルビー NR スイッチを中央の ON の位置にするとランプが点灯し、MPX フィルターが働いていることを表示します。

⑰テープ切換スイッチ [TAPE SELECT—BIAS, EQ]

使用するテープに合ったバイアス電流 (BIAS)、イコライザー特性 (EQ) を選べるため、市販のどのタイプのテープでも性能を十分に生かして楽しめます。11 ページの表を参考にして録音のときは、BIAS、EQ 両方のスイッチを、再生のときは EQ スイッチをセットしてください。

⑱プログラムボタン [PROGRAM] とクリアボタン [CLEAR]

自動選曲するときに何曲飛ばすかをプログラムボタンを押して設定します。一回押すごとに数字は“9”まで1つずつ増えます。クリアボタンを押すと数字は“0”に戻ります。

⑲AMS 表示窓

メモリー/AMS・キュースイッチを AMS の位置にすると“0”の表示が出ます。プログラムボタンを押すと“9”までの数字が表示され、何曲飛ばして自動選曲するか示します。自動選曲中は1曲過ぎるごとに数字が減り、残りの曲数を示します。

⑳メモリー/AMS・キュースイッチ

本機は4通りの頭出し操作ができます。このスイッチで選んでください。

MEMORY の位置ではテープカウンター“0”の位置まで巻き戻るとテープが自動的にストップ (メモリーストップ) します。送りボタンも同時に押して巻き戻すと“0”の位置から自動再生 (メモリープレイ) が始まります。⇒15 ページ

OFF の位置で巻き戻すときに送りボタンも同時に押しておく、テープの頭から自動再生 (オートプレイ) が始まります。⇒15 ページ

AMS・CUE (右側) の位置にして巻戻しボタンまたは早送りボタンと送りボタンを同時に押すとプログラムボタンで選んだ曲を自動的に捜して再生します (自動選曲=AMS)。⇒14 ページ

また、この位置で再生中に巻き戻しボタンまたは早送りボタンを押すとキュー操作ができます。⇒15 ページ

頭出し操作をしないときには OFF の位置にしてください。

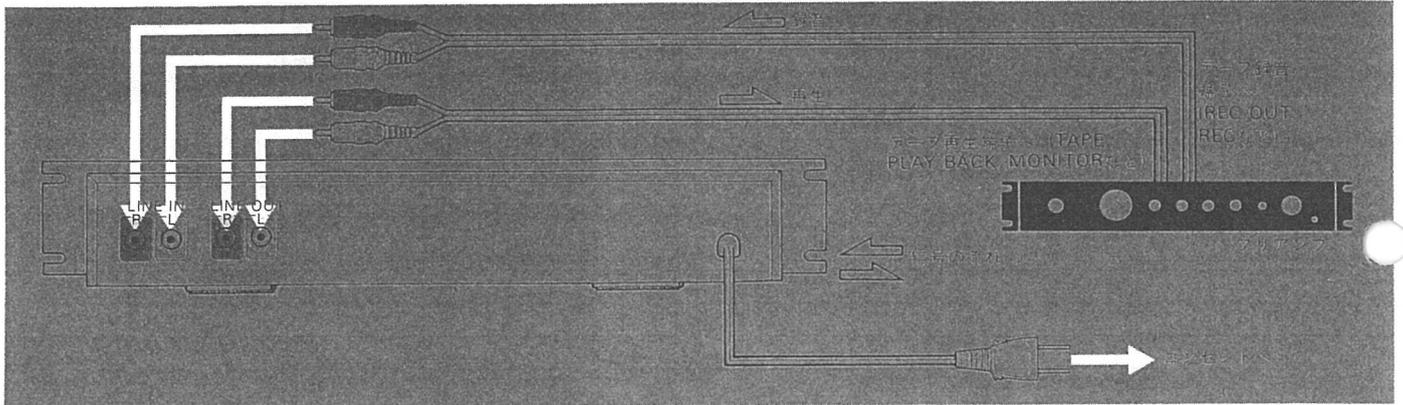
接続

ご注意

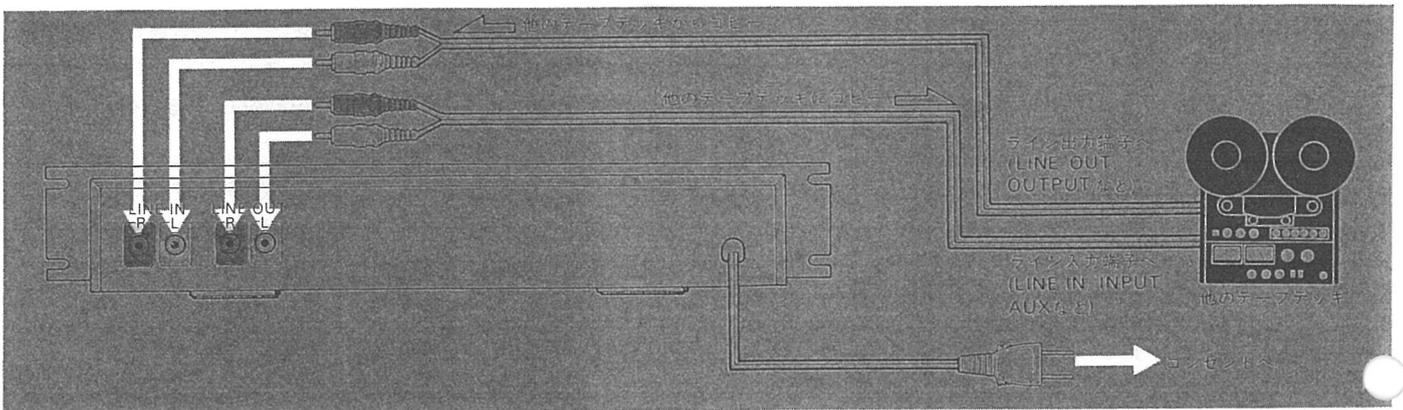
- アンプの電源は切ってから接続してください。
- 付属の接続コードは、白のプラグをL(左)チャンネル(白いジャック)に、赤のプラグをR(右)チャンネル(赤いジャック)につないでください。
- プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因になります。

- ライン入力ジャック [LINE IN] とマイクジャック [MIC] に同時に録音ソースが接続されていますと、マイクジャック側が優先され、ライン入力ジャック側からは録音されません。ライン入力ジャックから録音する場合は、マイクジャックには何も接続しないでください。

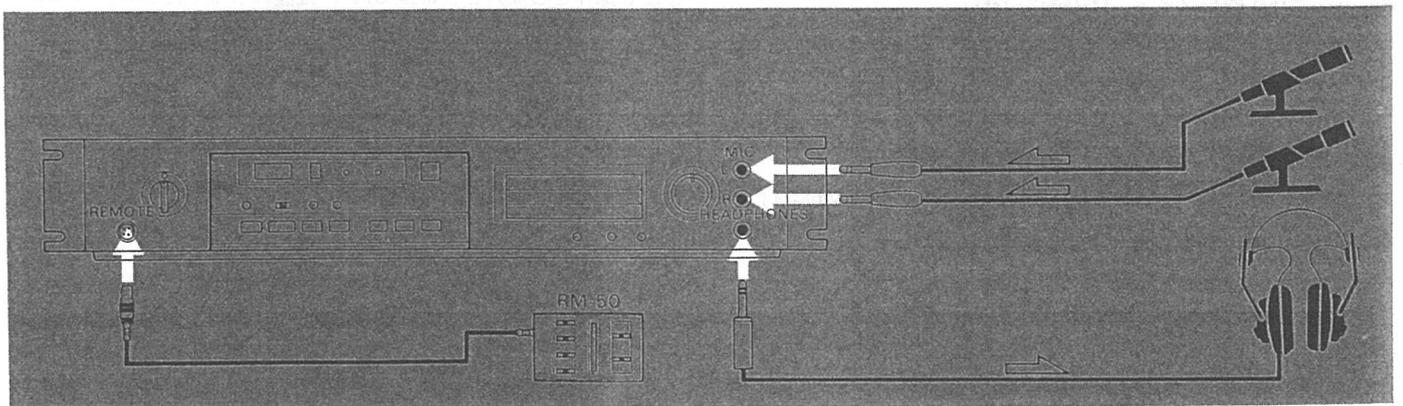
録音・再生の場合 (アンプとの接続)



テープコピーの場合 (他のテープデッキとの接続)



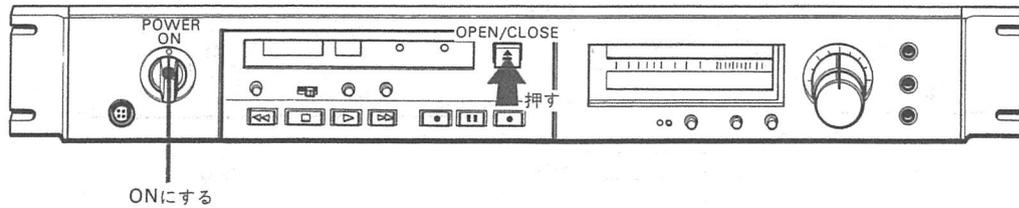
マイク、ヘッドホン、リモートコントロールの接続



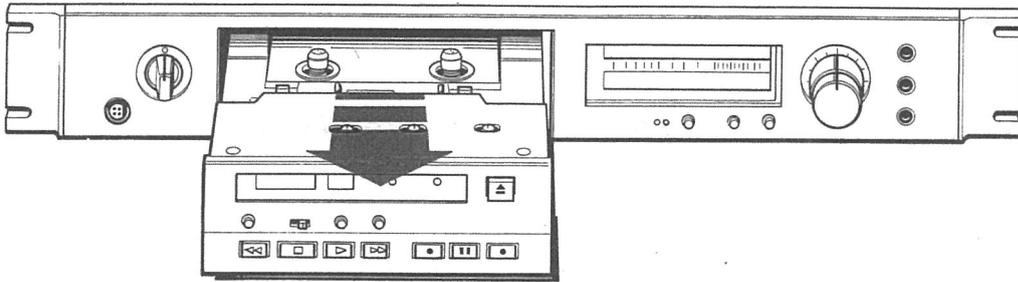
カセットの装着

電源スイッチを ON にして、OPEN/CLOSE ボタンを押してください。テープトランスポート部が出てきます。カセットは図のように入れてください。

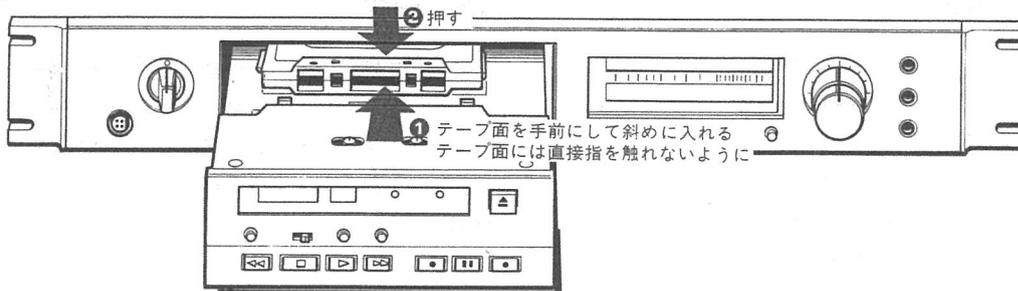
1



2



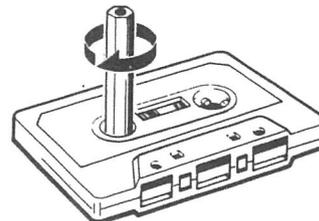
3



カセットを取り出すときは、テープ走行をストップ状態にしてから手で取り出してください。

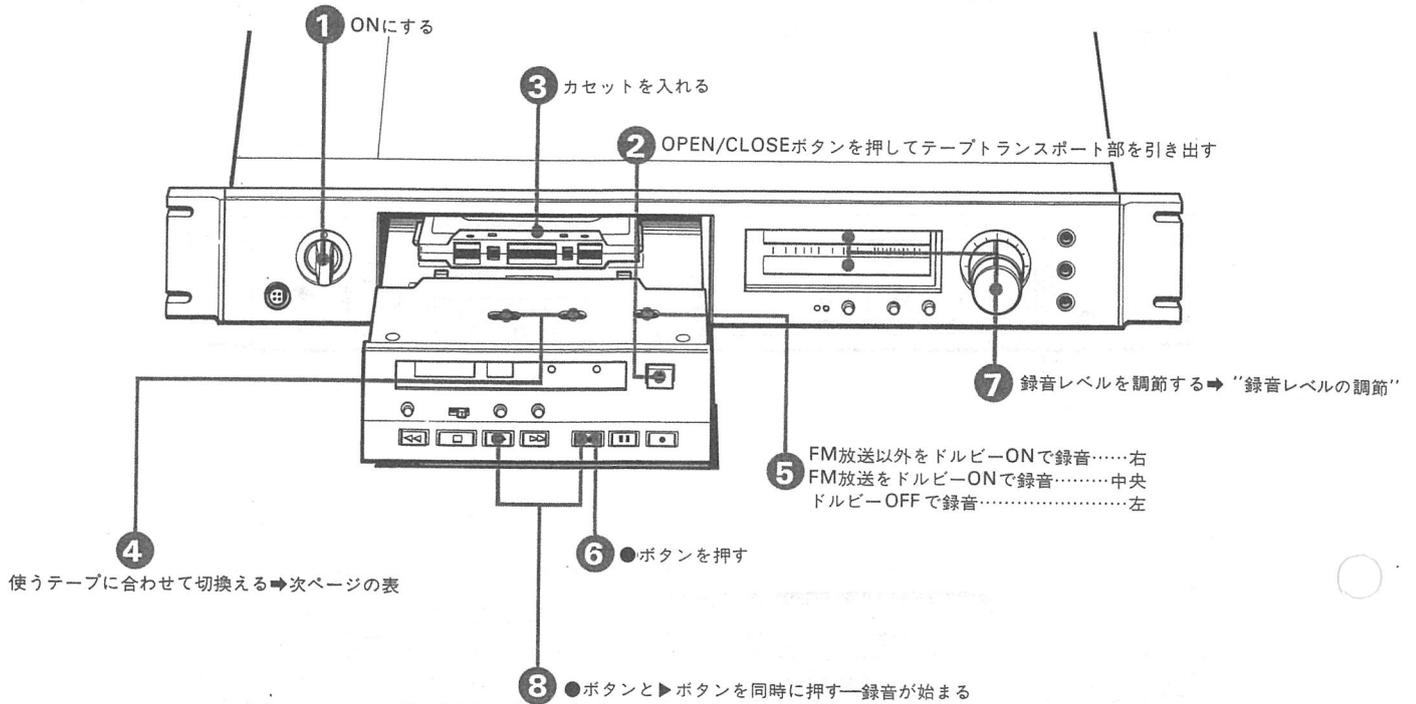
OPEN/CLOSE ボタンを再び押すとテープトランスポート部はしまります。

●テープにたるみがある場合は、鉛筆などでたるみをとってからお使いください。たるんだまま使うと、大切なテープがキャプスタンやピンチローラーに巻き込まれて使えなくなることがあります。



録音

番号順に操作してください。



一時停止ボタンを使って

このボタンを使うとタイミング良く録音を始めることができます。録音の手順①～⑤まではそのまま、⑥以降を次のようにします。

- ⑥一時停止ボタンを押します。
- ⑦録音ボタンを押しながら送りボタンを押します。
- ⑧録音レベル調節つまみを使って録音レベルを決めます。
- ⑨タイミングをねらって一時停止ボタンをもう一度押すと録音が始まります。

あなたがラジオ放送やレコード、録音物などから録音したものは個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断では使用できません。

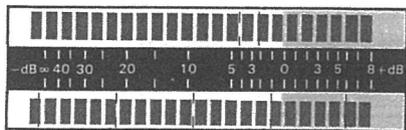
後追い録音

テープを再生中、テープを止めずに引き続き録音状態に入りたい場合は、送りボタンを押しながら録音ボタンを押します。録音ミュートボタンを使ってテープにブランクを作っておいてから、アフレコで自分のナレーションや別のプログラムを録音するときなどに便利です。

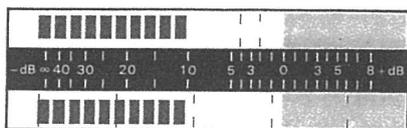
録音レベルの調節

録音レベルの調節は、録音結果に大きな影響を与えます。S/Nが良く、ダイナミックレンジが広い録音をするためには録音レベルをできるだけ高くとったほうが有利ですが、あまり高くとりすぎると音がひずんでしまいます。刻々と変化するピーク値を忠実に示す、本機のピークプログラムメーターを見ながら、テープの飽和レベル(録音できる最大レベルでテープの種類によって異なる)ぎりぎりに録音レベルを合わせるように心がければ、テープの特性を最大限に生かした、S/Nの良い録音ができます。一般に次のことが言えます。

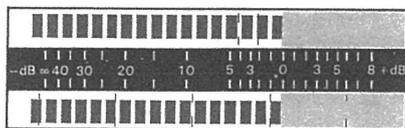
ピークプログラムメーターが赤い部分でたびたび振り切れる場合は、ひずみの多い録音になる。



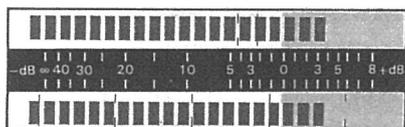
ピークプログラムメーターが-10dB ぐらいまでしか振れない場合は音の小さい、テープノイズが目立つ録音になる。



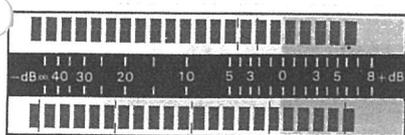
適正なレベルを決めるには、最大音でピークプログラムメーターがTYPE Iカセット (ソニー AHF、BHF、CHF) の場合に 0dB、TYPE IIカセット (ソニー JHF) または TYPE IIIカセット (ソニー DUAD) の場合に +4dB、さらに TYPE IV (メタル) カセット (ソニー METALLIC) の場合は +6dB までの範囲内で振れるようにする。



TYPE I カセット



TYPE II, III カセット



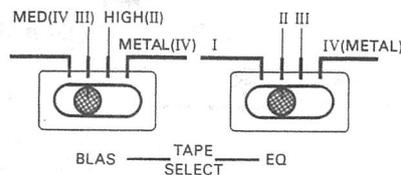
TYPE IV カセット

ただ、テープには周波数が高くなるに従って飽和レベルが低くなっていく性質があるということに注意しなければなりません。生録音などで高い周波数を多く含むプログラムソースを録音する場合には、上に述べた目安通りにレベルを設定すると、高すぎて音がひずんでしまうことがありますので低めに設定するようにしてください。

●録音時と再生時のピークプログラムメーターの振れ方が異なる場合がありますが、多少のずれは問題ありません。

代表的なテープとテープ切換スイッチの位置

お使いになるテープに合った位置を、つぎの表を参考にしてお選びください。ソニーのテープは、この位置で最良の特性が得られるようになっていますが、他社のテープは、ものによっては、スイッチの位置を変えた方がよい場合もあります。



テープ(C-60, C-90)	BIAS	EQ
AGFA: SUPER COLOR BASF: LN COLUMBIA: LX, 1H MAXELL: UL MEMOREX: low noise SCOTCH: TARTAN TDK: D, ED	LOW	TYPE I
SONY: AHF, BHF, CHF AGFA: SUPER FERRO DINAMIC BASF: Super LHI COLUMBIA: 3H DENON: DX3 FUJI: Range 2, 4 MAXELL: UD, XLI SCOTCH: MASTER 120μs(M12), CRYSTAL TDK: AD	MED(I/III)	TYPE I
SONY: JHF AGFA: STEREO CHROM BASF: SCR FUJI: Range 4X MAXELL: XLII SCOTCH: MASTER 70μs(M7) TDK: SA	HIGH(II)	TYPE II
SONY: DUAD AGFA: CARAT BASF: FCR DENON: DX5 SCOTCH: CLASSIC	MED(I/III)	TYPE III
SONY: METALLIC SCOTCH: METAFINE その他各社のメタルテープ	METAL(IV)	TYPE IV

ソニーのテープ

METALLIC

従来のカセットテープから大きく飛躍したメタルテープです。新磁性体メタルパウダーには、従来の酸化物磁性体とは異なり、酸素分子を含まない金属微粒子磁性粉を使用しています。その結果、今までに得られなかったダイナミックな音の世界をカセットテープで楽しみたいいただけます。

- ・リニアリティーに優れ、一層広がったダイナミックレンジが得られます。
- ・高域におけるMOLの向上により、ハイレベル録音でも、優れた周波数特性を示します。
- ・テープ感度が向上し、ハイレベル録音が可能になりました。その結果、S/Nの良い録音が得られます。

メタルテープの性能を十分に生かすため、本機ではメタルテープ用バイアス、イコライザーのポジションを設け、さらにS & F (センダスト・アンド・フェライト) ヘッドで対応しています。

DUAD: 高音用、中・低音用にそれぞれ適した磁性体をデュアルコート (2層塗り) したテープです。

DUADカセットの持つ豊かな低音感、とくにクラシック音楽に適していると云えます。

JHF: 超微粒子でつくられた一軸異方性を持つ磁性体ULTRA-γ (ウルトラ・ガンマ) の採用により、広帯域にわたり高感度で、ダイナミックレンジの広い再生音が楽しめるTYPE IIのテープです。とくに優れた高域特性は、ジャズ、ポピュラーなどの録音に適したテープです。

AHF: 従来のガンマヘマタイトを高密度化した磁性体を採用した、高性能ながら、ノーマルポジション (TYPE I) 用の使いやすいテープです。高感度、高域特性の拡大により、豊かで伸びやかな音が得られます。

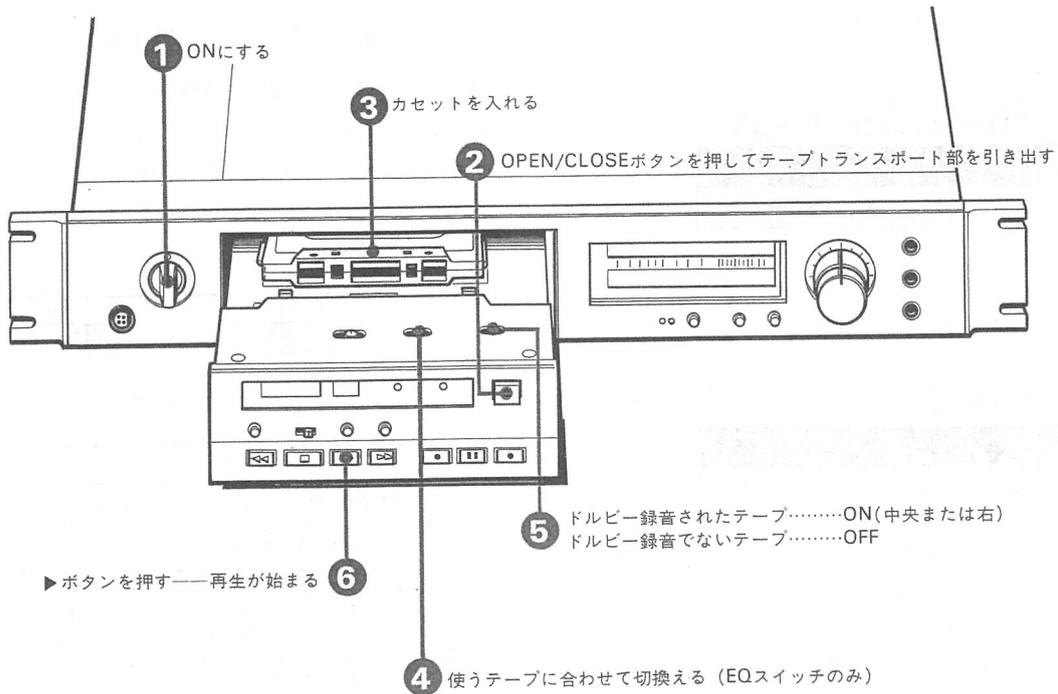
BHF: 微粒子化されたガンマヘマタイトを使った標準タイプの音楽専用テープです。全帯域にわたるくせのない、すなおな音が特徴になっています。

DPメカ (Dual Protection Mechanism)

安定したテープ走行を得るために、ソニーのすべてのカセットテープにDPメカを採用しています。この結果、テープの巻き乱れが大幅に防げ、変調ノイズが減少し、クリアな再生音が得られます。

再生

番号順に操作してください。

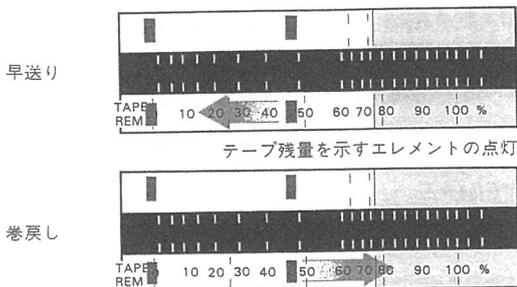


テープ残量のチェック

本機の液晶メーターでテープ残量を知ることができます。テープトランスポート部をしまった状態で操作しているときにも、テープが現在どの辺まで巻きとられていて、あとどの位残っているかがわかります。

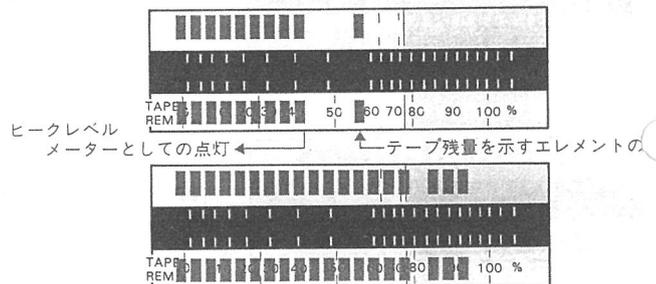
早送り・巻戻しするとき

液晶メーターのエレメントがひとつ点灯し（最下位の1エレメントは電源を入ると常時点灯します）、テープの走行に従って、早送りのときは左に、巻戻しときは右にエレメントの指示が移動します。下側のメーターの TAPE REM 目盛がテープ残量をパーセント表示しています。



録音・再生のとき

テープ残量スイッチを押すと、液晶メーターはピークプログラムメーターとテープ残量メーターの両方の働きを同時にします。このとき、ピークプログラムメーターのピークホールドは働きません。



ピークホールド (AUTO または MANUAL) を押すとテープ残量メーターモードは解除して、ピークプログラムメーターとしてだけ働くようになります。

録音ミュート

液晶メーターの見かた

メーター下側の TAPE REM 目盛がテープ残量をパーセント表示します。使用するテープの長さによってはパーセント表示が0%から100%になりませんのでご注意ください。



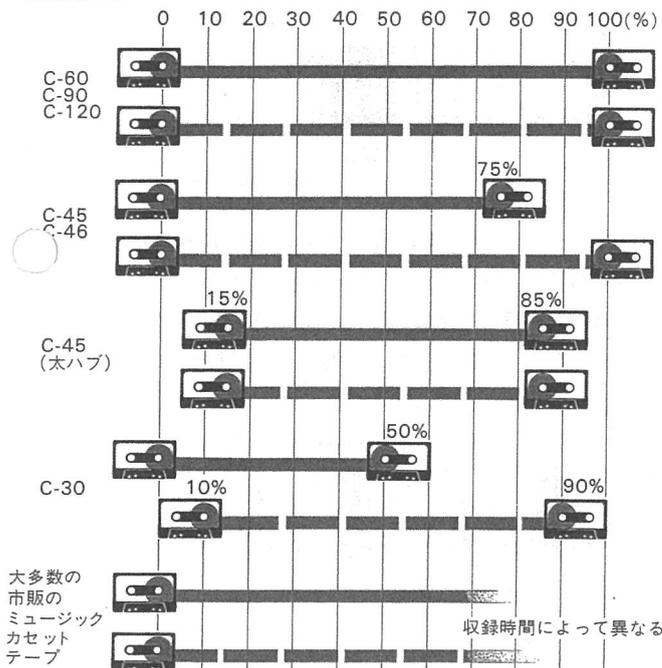
テープが左側に完全に巻きとられたとき



テープが右側に完全に巻きとられたとき

録音・再生

早送り・巻戻し



それぞれのテープを送り状態にしたとき（録音、再生時）の1エレメント当りの持ち時間は次のようになります。

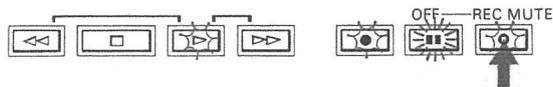
C-30	1分 (100%が30分)	C-45、46	(75%が約23分)
C-90	1.5分 (100%が45分)	C-30	(50%が15分)
C-120	2分 (100%が60分)	大多数のミュージックカセットテープ	1分

●テープに巻きむらがあると、残量メーターの指示が前後に振れることがあります。

曲と曲の間の録音したくない部分でこのボタンを押すと、4秒間だけ自動的に無音録音ができます。録音されていない部分を検出して動作する自動選曲(AMS)に使うテープのブランク作りに、アフレコのためのブランク作りに大変便利です。

録音時に次の順序で操作します。

①曲が終わったらミュートボタンを押します。一時停止ボタンのインジケーターが点滅し、4秒後に自動的に一時停止状態に切り換わります。



②タイミングをねらって、次の曲が始まる直前で一時停止ボタンを押して解除します。録音が始まります。

●ミュートボタンが動作中もカットしているプログラムの内容がスピーカーからモニターできます。

4秒以下のブランクを作るには

ミュートボタンを押し、一時停止ボタンの表示が点滅している間に一時停止ボタンを押してください。ミュートが解除されて録音が始まります。

4秒以上のブランクを作るには

ミュートボタンを、作りたいブランクの間押し続けてください。4秒すぎると一時停止ボタンのインジケーターの点滅は早くなります。指を離すと一時停止に切り換わります。録音を始めるときは一時停止ボタンを押して解除します。

9曲以上飛ばすには

1回で選曲できる数は、表示が“9”までのため9曲先または8曲前までです。例えば12曲先を選曲するときには、“9”の表示プラス“3”にする必要があります。このためには、まず表示を“9”にし、自動選曲を始めます。表示が3カウント以上減ったら(9-3の“6”以下になったら)、プログラムボタンをさらに3回押して、3カウント追加します。

- 12曲前を選曲する場合は、飛ばす曲は13曲ですので、カウントは4つ追加します。

自動選曲(AMS)の働くテープ

曲間の無音録音の部分を検出してAMS動作を行なうため、古いレコードから録音したテープなど、雑音が多く入っているとAMSが働きません。AMS用テープを、本機のミュートボタンで4曲間の曲間を入れて作ると、確実にAMSの働くテープになります。

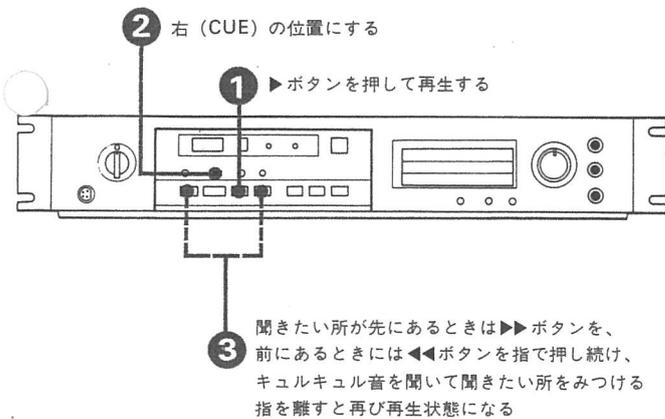
➔ 13 ページ

操作上のご注意

- AMS動作中に、メモリー/AMS・キュースイッチをOFFまたはMEMORYに切り換えしないでください。
- クラシック音楽のテープなどで、ひとつの曲の中で何秒か音がとぎれたり、低いレベルの部分が何秒か続くと、曲間の無音録音部として検出されることがあります。

キュー操作

テープのキュルキュル音を聞いて、音の切れ目や変化を目安に聞きたい所を捜すことができます。



メモリーストップ/プレイ

メモリースイッチを使って、テープカウンター“0”の位置でテープを自動的に停止させたり(メモリーストップ)、再生させたり(メモリープレイ)できます。

- ① 録音または再生時に、あとでメモリーストップまたはメモリープレイさせたいところでリセットボタンを押してテープカウンターを“0”にします。
- ② メモリー/AMS・キュースイッチをMEMORYの位置にします。
- ③ 録音または再生が終わったら、メモリーストップのとき：巻戻しボタンを押します。“0”まで巻き戻るとテープは自動的に停止します。メモリープレイのとき：巻戻しボタンと送りボタンを押します。“0”で、自動的に再生が始まります。

ご注意

- テープを巻き戻したときに、カウンター“0”より少し手前の、“9999”付近で停止するのは、プログラムの頭が欠けないための配慮です。
- “0”にセットした位置よりさらに巻き戻したいときは、もう一度巻戻しボタンを押してください。
- 巻戻しボタンを指で押したままにしていると、カウンターが、“9999”になってもメモリーストップ/プレイしません。

自動再生(オートプレイ)

メモリー/AMS・キュースイッチOFFの位置で、巻戻しボタンと送りボタンを押してテープを巻き戻すと、テープがすべて巻きとられた後に巻戻しボタンだけが解除して、自動的に再生が始まります。巻戻しが終わるまで待つてから送りボタンを押すという手間がはぶけ、カセットの同じ面をくり返し再生したい時などに便利です。

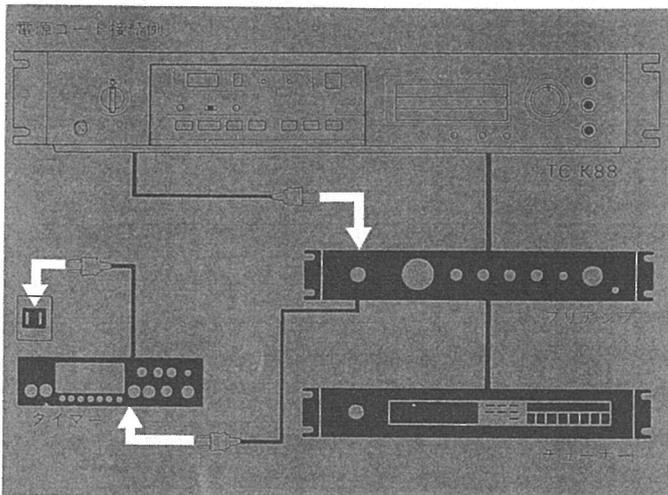
タイマーを使った操作

別売のタイマー（PT-70、PT-27、PT-24A、DT-50 など）を使って、お好きな時刻に録音または再生ができます。ON、OFF の切換えが連続してできるタイマーを使えば、何度でも録音または再生ができます。

タイマーにより操作が異なりますので、お使いになる前にタイマーの説明書を必ずお読みください。

留守録音

①各機器の電源コードをつなぎ、各機器に電気が流れるようにタイマーをセットしておきます。



②アンプ、チューナーの電源スイッチを ON にして、録音する局を選びます。

③デッキの電源/タイマースイッチを ON にします。

④ OPEN/CLOSE ボタンを押してテープトランスポート部を引き出し、カセットを入れ、録音のためのスイッチ類をセットして録音レベルを決めます。

⑤タイマーを希望の時刻に録音が始まるようにセットします。（このとき、各機器に電気が流れなくなります。）

⑥デッキの電源/タイマースイッチを TIMER-REC にします。これで、希望の時刻に録音が始まります。留守中や睡眠中に聞きたい番組を録音しておくことができるので便利です。

目覚し再生

①留守録音の場合と同様に各機器をつなぎます。

②デッキの電源/タイマースイッチを ON にして、カセットを入れ、再生のためのスイッチ類をセットします。

③タイマーを希望の時刻に再生が始まるようにセットします。（このとき、各機器に電気が流れなくなります。）

④デッキの電源/タイマースイッチを TIMER-PLAY にします。これで希望の時刻に再生が始まります。目覚し時計のかわりにお好きな音楽でお目覚めください。

消去——まへの録音を消すには

録音済みのテープに録音をすると、まへの録音が消されて新しい録音がされます。あらたに録音しないでまへの音を消すには、

①カセットのツメが折れていないことを確認します。折れているときは、セロハンテープなどで穴をふさいでください。

②録音レベル調節つまみを“0”にします。このとき接続コード、マイクを抜くとよりきれいに消去できます。

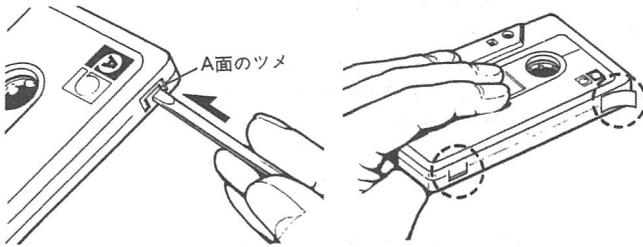
③バイアススイッチをテープに合った位置にします。（METAL の位置にするとどのテープでも消去できます。）

④録音ボタンを押しながら送りボタンを押します。

テープ消磁器（BE-8、別売）を使うと、短時間で簡単に消去することができます。（メタルテープは保磁力が高いため BE-8 では完全な消去ができません。）

カセットテープについて

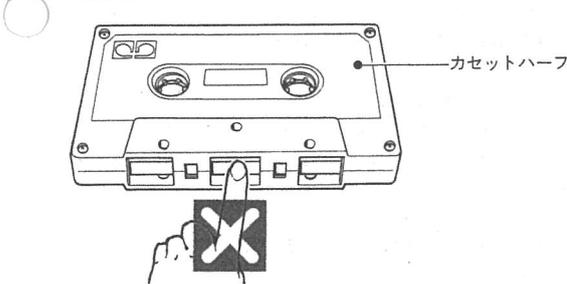
カセットのツメ



消したくないカセットは、ツメを折っておきましょう。録音状態にできなくなり、誤って消してしまうミスを防げます。

ツメを折ったあとの穴をセロハンテープなどでふさぐと、再び録音することができます。(○印以外のところに貼らないように)

取扱いと保管



- テープ面には直接指をふれないように。テープの汚れはヘッドを汚すことになります。
- カセットハーフには厚めの紙などを貼らないように。ヘッドに当たる位置がずれて、正しく録音・再生ができなくなります。
- 磁気のあるところ——スピーカー、アンプ、テレビなどのそばに置かないように。大切な録音が消えたり、雑音が入ったりします。
- 高速(早送り・巻戻し)の状態で巻きとったまま保管しないように。テープが片のびする原因となります。使用後のテープは低速で巻かれた状態で保管しましょう。
- ほこりから守るため箱に入れて保管しましょう。ほこりがつくとヘッドを汚すことになります。
- 高温、多湿のところは避け、風通しのよいところに保管しましょう。
- 直射日光のあたるところに置かないように。
- 長期間テープを使わないときは、ときどき巻直しておきましょう。転写(重なり合ったテープ間で信号がまざり合うこと)が防げます。

おすすめのカセット

TC-K88 は、ソニーの BHF カセット、JHF カセット、DUAD カセット、METALLIC カセットで調整されています。性能をフルに発揮させるためにも、これらのカセットをおすすめします。

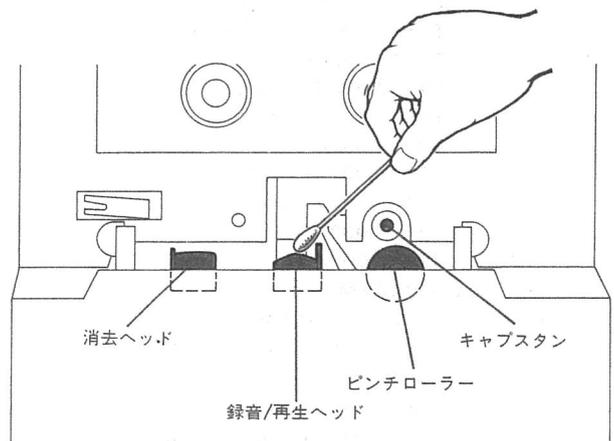
手入れのしかた

ヘッド部のクリーニング

用意するもの：付属のクリーニング棒または柔らかい布
クリーニング液または純アルコール液
(別売のクリーニング液とクリーニング棒がセットされたクリーニングキット KK-3 を使うと大変便利です。)

クリーニングのしかた

- ①電源スイッチを ON にして、OPEN/CLOSE ボタンを押し、テープトランスポート部を引き出します。
- ②クリーニング棒をクリーニング液で軽くしめらせて、ヘッド、ピンチローラー、キャプスタンをふきます。



ヘッドをクリーニングペン (CLH-3、別売) でもう一度ふくと、より効果的です。
クリーニング液が乾くまでカセットは入れないでください。

ヘッドの消磁——始める前に POWER スイッチは OFF にデッキを使っているうちにヘッドが磁化され、ザーという雑音が入ったり、高音が消されたりすることがあります。ヘッドとテープのあたる金属部分はヘッド消磁器 (HE-3、別売) で定期的 (20~30 時間使用ごと) に消磁してください。詳しくはヘッド消磁器の説明書をごらんください。

キャビネットおよびパネル面の汚れ

表面の汚れは、中性洗剤液を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げをいためますので使わないでください。

主な規格

トラック方式	4トラック2チャンネル ステレオ
早送り・巻戻し時間	約60秒 (C60テープにて)
バイアス周波数	105kHz
総合S/N	ドルビーNRスイッチOFFにて ・TYPE IIIカセット (ソニーDUAD) 60dB ピークレベルにて ・TYPE IIカセット (ソニーJHF) 58dB ピークレベルにて ・TYPE Iカセット (ソニーBHF) 54dB ピークレベルにて ドルビーNRスイッチONにてS/N改善量は5dB (1kHzにて)、10dB (5kHz以上)
総合ひずみ率	0.9% (ソニーDUADカセット)
周波数特性	ドルビーNRスイッチOFFにて ・TYPE IVカセット (ソニーMETALLIC) 20~19,000Hz 30~17,000Hz (±3dB) 30~13,000Hz (±3dB、OVU録音) ・TYPE IIIカセット (ソニーDUAD) 20~19,000Hz 30~17,000Hz (±3dB) ・TYPE IIカセット (ソニーJHF) 20~18,000Hz 30~16,000Hz (±3dB) ・TYPE Iカセット (ソニーBHF) 20~17,000Hz 30~15,000Hz (±3dB)
ワウ・フラッター	0.03% (WRMS)
入力ジャック	マイクジャック (標準ジャック)2 最小入力レベル0.25mV (-70dB) ローインピーダンスマイク用 ライン入力ジャック (ピンジャック)2 最小入力レベル77.5mV (-20dB) 入力インピーダンス50kΩ
出力ジャック	ライン出力ジャック (ピンジャック)2 最大出力0.435V (-5dB) 50kΩ 負荷時 負荷インピーダンス10kΩ以上 ステレオヘッドホンジャック1 -26dB (8Ω 負荷時)
液晶ピークプログラムメーター	
指示範囲	-40dB ~ +8dB
周波数特性	20~20,000Hz ±1.5dB
積分時間(アタックタイム)	1msec
復帰時間(リカバリータイム)	0dBから-20dBに戻る時間 750msec
オーバーシュート	なし
表示エレメント	L、Rチャンネル 各33エレメント

電源部・その他

電源	AC 100V、50/60Hz
消費電力	30W
大きさ	430×80×370mm (幅/高さ/奥行) 480×80×370mm (把手を含む)
重さ	9.8kg (把手を含む)
付属品	接続コード2本 ヘッドクリーニング棒1式

本機の規格および外観は、改良のため予告なく変更することがありますがご了承ください。

別売アクセサリ

エレクトレット コンデンサー マイクロホン	単一指向性：ECM-290F、ECM-270F、ECM-260F、ECM-23F 無指向性：ECM-170 ステレオセット：ECM-2290F、ECM-2270F、ECM-2023F
ワンポイント ステレオ エレクトレット コンデンサー マイクロホン	ECM-990F、ECM-99A (1本でステレオ録音可能)
マイクロホンミキサー	MX-670 (入力6チャンネル、出力2チャンネル) MX-550 (入力4チャンネル、出力2チャンネル、エコー付) MX-250 (マイク入力2チャンネル、ライン入力2チャンネル、出力2チャンネル、エコー付)
ステレオヘッドホン	DR-6M、DR-55、DR-Z7、DR-Z6、DR-Z5
コンデンサーヘッドホン	ECR-880、ECR-660
プログラムタイマー	PT-70、PT-27、PT-24A、DT-50
リモートコントロール	RM-50
接続コード	RK-105A (2ピンプラグ↔ミニプラグ：ラジオ、テレビ録音用) RK-112、RK-113、RK-116 (2ピンプラグ↔2ピンプラグ)
プラグアダプター	PC-5A (ピンプラグ↔ミニジャック) PC-2A (標準プラグ↔ミニジャック)
カセットケース	CK-16
テープ消磁器	BE-8
お手入れ用アクセサリ	クリーニングキット：KK-3、クリーニングカセット：C-IC クリーニングペン：CLH-3、ヘッド消磁器：HE-3

故障とお考えになる前に

デッキの調子がどうもおかしい——そんなとき、サービス機関にご相談になる前にちょっとチェックしてみてください。案外、簡単なミスや勘違いをしていたり、ちょっとしたお手入れで直ることが多いものです。

基本的なチェック

- 接続は正しくされていますか ➡ 8 ページ
- アンプのつまみ類は正しくセットされていますか
- ヘッド部がよごれていませんか ➡ 17 ページ

症状によるチェック

操作ボタン

- 電源スイッチを ON にした直後、操作ボタンを押しても動作しない
 - 電源スイッチを ON にして、4 秒ほどしてから操作ボタンを押す
 - 操作ボタンを押しても動作しない
 - カセットが入っていない、またはきちんと装着していない
- 録音ボタンを押しても動作しない
 - カセットのツメが折れている
 - 再生、早送り、巻戻し状態になっている

テープ走行

- 送りボタンを押してもテープが走行しない
 - 一時停止ボタンが押されている
- 早送り、巻戻しのときにテープの走行音が大きい
 - 使用するテープの種類によるもので故障ではない
- テープが巻きとられないうちにオートシャットオフする
 - メモリー/AMS・キュースイッチが MEMORY になっている
 - カセットハーフの構造またはゆがみによる
- から早送りまたは巻戻しに直接切り換えられない
 - メモリー/AMS・キュースイッチが CUE になっている

録音・再生

- 録音または再生できない (音が小さい)
 - ヘッドがよごれている
 - 正しく接続されていない
 - アンプのつまみの位置が正しくない
- 音のふるえ、音とび
 - ヘッド、ピンチローラー、キャプスタンがよごれている
- ザーという雑音、高音が消される
 - ヘッドが帯磁している
- 前の録音が完全に消えないで残る
 - 消去ヘッドがよごれている

音のバランスがおかしい

- テープ切換スイッチの位置がちがう→誤った位置で録音した場合は、アンプのトーンコントロールで調節して聞く
- ドルビー NR スイッチの位置がちがう

異常音

マイクで録音中、発振音が出る

- マイクがスピーカーに近すぎる→マイクをスピーカーから遠ざけるか、アンプの音量を小さくする

ハム雑音が出る

- パワーアンプの上または下にじかにデッキを置いている

AMS 動作時にわずかにキュルキュル音が出ることもある

- ヘッドをあてて走行させているため、音もれることがある

電源を入れたときにキリキリと音がする

- 輸送中の衝撃などにより、キャプスタン用ギアに送りボタン用または一時停止ボタン用ギアが接触している→カセットを入れて、送りボタンまたは一時停止ボタンを押してください

保証書とアフターサービス

保証書について

- この製品には保証書が添付されていますので、お買上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 万一故障した場合の無料修理期間は、お買上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

- 調子が悪いときはまずチェックを → “故障とお考えになる前に”の項を参考に、故障かどうかお調べください。
- それでも具合の悪いときはサービスへ → お買上げ店、または添付の“サービス窓口のしおり”にあるお近くのソニーサービス窓口にて修理をお申し付けください。
- 保証期間中の修理は → 保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
- 保証期間経過後の修理は → 修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理いたします。

なお、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は製造打切り後8年です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。

出張修理をご依頼になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：TC-K88
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日
- 住所、氏名、電話番号、道順
- 訪問希望日

保証期間中の修理など、アフターサービスについて不明な点は、お買上げ店またはソニーのサービス窓口、ソニーインフォメーションセンターにお問合せください。

